



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/平成28年2月29日

卸団地からビジネスパークへ 平成28年組合員新年会



組合員新年会であいさつする西理事長

新年の門出を祝う恒例の組合員新年会が1月8日(金)、ホテル青森において、組合員及び来賓合わせて127名が出席し、盛大に催された。

開催にあたり西理事長は、「昨年、民間から地方創生を考へ、地域経済をより活力あるものにする流通機能向上支援策を模索するため、委員会を設置し、検討を重ねました。青森商工会議所でも同様

の調査研究を進めており、その内容を広く活用していただくため、同会議所と合同で、今年の3月にシンポジウムを開催する予定です。



合同清掃10年賞表彰式

今年には組合創立49年を迎え、記念すべき50周年に向け問屋町ならではの事業展開を進める年。特に、一昨年からの取り組みである『問屋町ブランド戦略』を引き続き実施し、卸地の企業価値を高めるほか、

流通機能向上支援策をもとに、今まで以上に組合員の皆様の事業活動をサポートしていきたい」とあいさつした。

続いて、三村青森県知事(八桁商工労働部長代読)、佐々木青森副市長、日本銀行青森支店の山口支店長から祝辞が述べられ、地方創生に寄与すべく新たな取り組みを通じて、青森県の流通業界のリーダーとして、引き続き地域経済の発展に貢献するよう期待が寄せられた。

その後、新規組合員の三菱電機システムサービス(株)と(株)また同じく1月に、(株)マエダのミートプロセスセンターが竣工し、稼働を始めた。



マエダ ミートプロセスセンター



通所介護リハビリ施設「スマイル」

組合員施設の新築相次ぐ

29年度に創立50周年を迎える問屋町では、組合員施設の新築・改築等が盛んに実施されている。

また同じく1月に、(株)マエダのミートプロセスセンターが竣工し、稼働を始めた。同社はむつ市に本社を置き、青森県全域でスーパーマーケットを店舗展開。同センターのオープンにより、これまで各店舗において行われてきた牛肉・豚肉・鶏肉の商品加工、包装、値札付け、商品の仕分け作業が一括して行えるようになった。各店舗間の品質のばらつきが一層無くなり均一化

移った。祝宴では、参加者が新年のあいさつを交わし合い、会場は賑わいをみせた。

28年1月には、問屋町内で建設を進めていた(有)ベストスマイル青森の通所介護リハビリ施設「スマイル」が完成し、営業がスタートした。リハビリに特化したデイサービス施設である同所では、要介護や要支援と認定された利用者が、疾患により生じた移動・身の回りの動作・コミュニケーションなど体の不具合を改善させるためのトレーニング設備等が充実。プロのトレーナーがカウンセリングをし、1人1人に合わせた日常生活に即したメニューを提供し、自立支援に努めている。

支援事業の報告書作成など承認
第8回理事会

第8回理事会が、1月27日(水)に問屋町会館で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また、事務局からは、平成27年度求人アンケート調査結果について報告を行った。

主な案件審議は次のとおり。

案件一、平成27年度卸商業団地機能向上支援事業特別委員会からの意見について

報告書の作成やシンポジウムの開催などが承認された。

二、組合員施設の賃貸について

三、組合員の施設建築に伴う間口の設置について

四、平成27年度第9回理事会の日程等について

会員企業の取り組みを紹介

同友会 会員交流会

青森問屋町経営同友会の第17回会員交流会が、1月22日(金)にホテル青森で開催され、会員他23名が参加。今回は会員2社が自社の概要・取扱商品の紹介を行った。

1社目は、28年度に新規加入した(株)エアサインの石澤社長が自社の取り組みを紹介。同社は会場となったホテル青森の3階エスカレーター正面にあるウインドウディスプレイを担当するなど、デザインを活かし、県内各地で看板やイベント広告などのデザインから製作・設置まで行っている。

続いて「らーめんはちもり」



同友会 会員交流会

を運営する(株)秋谷の秋谷社長が、先代から受け継いでいる味に対するこだわりを紹介。同店では体に優しいラーメンを目指し、スープは化学調味料を一切使わず、素材の香りと風味を活かすため、ひと手間もふた手間もかけ、丹精こめて作っていると説明した。

今年度最後となる第3回献血が1月26日(火)、問屋町会館前にて実施され、組合員従業員ら18名が協力した。組合では労務対策事業の一環として、年3回、問屋町会館前にて移動献血バスによる献血を実施し、組合員らに協力を呼びかけている。また、平成20年に献血サポーターに登録し、献血ルームからのお知らせを組合員に案内するなど、献血推進運動を続けている。平成26年には長年の活動が認められ、青森県知事から感謝状が贈られた。

青森県は献血者が減少しており、医療機関において必要



第3回献血

とする血液が慢性的に不足している。そのため、病気の治療等に不可欠な血液製剤の安定供給に支障をきたすことが懸念されている。

組合では、社会貢献活動として、今後も、積極的に献血への協力を呼びかけていく。

献血の呼びかけに
組合員従業員が協力

同商品は、甘草由来のほのかな甘さを持ち、きめ細やかな

甘草とは漢方薬の約7割に配合されている植物で、書いた字のとおり「甘さ」が特徴の生薬。この甘さはグリチルリ

ンという物質からなっていて、漢方薬、甘味料、消臭、化粧品等、幅広く利用されている。

3つ目は、青森市の老舗こんにやく製造卸会社である(株)福島屋が開発した、こんにやく入りの子供向け粘土(4色

入・1,080円、税込。こんにやく以外の原料も食品素材だけを使っているため、幼児が誤飲しても少量であれば特に危険はないという。

興味のある方は、ぜひ一度、問屋町ストアに足をお運びいただきたい。

問屋町ストア新商品紹介

問屋町ストアの新商品を紹介する。

1つ目の商品は、青森県新郷村産の「甘草」(かんそう)を使用した炭酸水、りこ水(みず) Sparkling [500ml入・162円、税込]。

空腹感を抑える効果がある。栄養豊富で代謝を促進させる働きもあるためダイエット効果が期待でき、ジュースやスープ、ヨーグルトなどに混ぜると簡単に摂取できる。

2つ目は、スーパーフードとして話題のチアシード(100g入・734円、税込)。

同商品は南米で栽培される果実「チア」の種で、水に浸すとジェル状になって膨らみ、

炭酸が特徴で、そのまま飲むのはもちろん、ウイスキーや焼酎などのお酒を割るのにもオススメである。

問屋町ストアに足をお運びいただきたい。



問屋町ストアの新商品

職場のユニホーム

ご一報下さい。カタログ持参致します。

繊維製品総合卸



株式会社

神

山

青森市問屋町 TEL 738-4581 FAX 738-4089

事務機のコンサルタント

青森精機株式会社



本社 030-0131 青森市問屋町二丁目12番23号
TEL (017) 738-2106(代表) FAX (017) 738-0856
十和田営業所 034-0092 十和田市西一番町10番27号
TEL (0176) 22-3253(代表) FAX (0176) 24-1192(代表)

冷凍食品・食肉・食鳥・調味料
海産品・冷凍エビ・鶏卵・惣菜

(株)丸大冷蔵

本社 青森市問屋町2丁目16の8
TEL (017) 738-4171(代表)
FAX (017) 738-8399
営業所 八戸・弘前・むつ
盛岡・一関・秋田・大館

包装資材・厨房用品・ユニフォーム
ギフト用品・タオル等の総合商社



株式会社

金竹成家

代表取締役 成家昌弘

本社 青森市問屋町1-7-28 TEL 017(738)4701代
FAX 017(738)4706
営業所 弘前市神田2-3-7 TEL 0172(33)7171代
FAX 0172(33)7170

ビジネスブックカフェ通信

vol.5

問屋町会館1階玄関ホールにてビジネス書を常設展示する問屋町ビジネスブックカフェ。展示される書籍は、組合員の(株)金入より寄贈されたもの。同所に展示されているビジネス書は青森県南部町在住の人気ビジネス書評家の聖幸(せいこう)氏がセレクト。不定期連載のビジネスブックカフェ通信では、同氏のオスメするビジネス書を紹介している。

今回紹介するのは三谷宏治(著)『戦略読書(ダイヤモンド社) ¥1,800(税抜)』。『ビジネス書大賞を受賞した「経営戦略全史」の著者の三谷さんによる読書論。ビジネスパーソンとして他者との差別化を図るための戦略的な読書法について400ページ超のボリュームで詳細に書かれています。自分の社会人のステージに合わせて、読む本のポートフォリオを作成して計画的に読む、ビジネス系の本を一冊読んだら、それ以外の本を一冊読むことを義務づけて、人間としての幅を広げ、他者との差別化を図るなど、実践的なアドバイスに満ち溢れています。三谷さんがこれまでに読んだ本についてもふんだんに解説がありますので、面白い本を探するためのブックガイドとしても使えます。』(聖幸・評) 同書は、ブックカフェにて展示されるほか、問屋町ストアで購入可能。



民間からの地方創生策

【第1回】

「オール青森!を実現する流通機能向上のためのマスタープラン」民間からの地方創生策レポート」

初めに、青森県及び青森市の現状を、卸売業を中心に見てみたい。

青森県は平成22年時点で人口約137万人、経済規模は平成24年度で全国33位と、全国の中位に位置する。産業構成比は、第一次産業4%、第二次産業22%、第三次産業73%で、全国平均と比較すると

第一次産業と第三次産業の比率が高く、第二次産業が低い。青森県経済は、GDPの推移で見ると、全国平均を下回る経済成長率となっており、卸売業・小売業を含め、依然として厳しい経済環境に置かれている。その中でも、青森市は製造業の集積が低く、卸売業・小売業の比率が高い流通業を中心とした都市である。青森市における卸売業の現状は、年間商品販売額で平成14年度から24年度の10年間で42%も減少している。比較的減少率が低かった生産財卸に比べ、平成14年度では最大の売上規模を誇っていた農畜産物・水産物卸売業の減少率が特に高く、消費財卸の苦境が目立つ。また、予算の状況を青森市と県内2市、県外4市と比較

して見たところ、平成27年度青森市の商工費予算は、総歳出に占める構成比が1.9%(他市平均4%)と最も低く、絶対額でも低い。あわせて予算執行率も平成26年度78%と八戸市・弘前市が100%を超えているのに比べ低位となっている。次に、卸売業の方向性を検討するにあたり、生産財卸は公共事業や復興事業等により比較的堅調であることも考慮し、消費財卸を中心にフォーカスしていることを申し添える。

青森市の消費財卸の目指す方向性は、県内の豊富な一次産品を活かした高付加価値商品を生み出すことがポイントとなる。商品の製造や加工を他社と連携して行いながら、コストを抑えつつ新たな取り組み

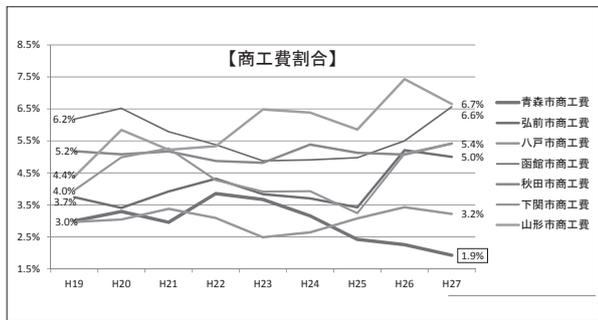
業務報告

主要事項

- 1月
 - 4日▽青森市・青森商工会議所新年祝賀会
 - ▽論談同友会新年祝賀会
 - 15日▽組合員新年会
 - 8日▽金融審査会
 - 16日▽青森青年会議所新年祝賀会
 - 19日▽青森地区労働基準協会 労務管理部会役員会
 - 20日▽商団連ワーキング委員会
 - 21日▽商団連事務局長会世話人会
- 22日▽卸売業団地機能向上支援事業第3回特別委員会
- ▽問屋町経営同友会第17回会員交流会
- 26日▽第3回献血
- ▽青森県運営診断
- 27日▽第8回理事会
- 28日▽商団連賀詞交歓会

問屋町ビジネススクール

- 19日▽会計経理の基礎の基礎(読解編)①
- 21日▽会計経理の基礎の基礎(読解編)②
- 27日▽営業研修(実践型活用編)



境建材株式会社

〒030-0131 青森市問屋町一丁目14番1号
本社 ☎(017)764-5581 FAX (017)728-7275
工事部 ☎(017)764-5585 左官材料・タイル専門 ☎(017)728-7266

- 商事部: 新建材全般、タイル工、左官材料
- 工事部: 内装工事、外装工事、防水工事

TOTO 水彩プラザ

パッキン一枚からウォシュレット取付け
TOTO和洋リモデル、水まわりリフォームまで
当社におまかせください。



株式会社ムラバヤシ

〒030-0131 青森県青森市問屋町一丁目8-27
TEL 017(738)4165 FAX 017(738)1852

問屋町会館で
組合員従業員が厄除け祈願

組合では、組合員従業員を
対象とした平成28年問屋町新
年合同厄払いを2月4日(木)
に、問屋町会館で開催した。

厄年は数え年で、男性は25
歳、42歳、61歳、女性は19歳、
33歳、37歳、61歳が本厄。前
の年を前厄、次の年を後厄と
いう。この時期は、体力的、
家庭環境的、対社会的に転換
期にあり、厄災が起こりやす
い時期として忌み慎まれてお
り、その年の無病息災を祈願
祈禱するのが厄払いである。
しかし、厄払いをしたくて
も、「どこで、どうすればよい



沼田禰宜によるお払い

のわからない」、「仕事が忙
しく、なかなか時間がとれな
い」などの理由から行えない
方も多い。
そこで組合では、厄年を迎
える組合員従業員が1年間平

穩無事に過ごせるようにと、
平成25年から労務対策事業の
一環として厄払いを開始。職
場に近い問屋町会館でお昼休
みの時間を利用して開催し、
好評を得ている。

今回の厄払いには組合員従
業員13名が参加。問屋町会館
1階会議室に祭壇が設置され、
問屋町の氏神様である大星神
社の沼田禰宜(ねぎ)による
厄払いの祈禱が執り行われた。
参加者は祭壇に玉串を捧げ、
自身や家族の無病息災を祈願
した。



祭壇に玉串を捧げ祈願

厄年と心構えをしているだけ
でも危険を回避できることも
ある」と話した。
最後に参加者は、「お守り」
「お札」「御神矢」を受け取
り、厄払いは無事終了した。

団地企業訪問

今回の団地企業訪問は、昨
年4月に青森営業所に赴任さ
れた、岩崎電気(株)の相原所長
にお話を伺った。

同社は、岩崎電波工業とし
て昭和19年に設立。昭和24年
に国内初の反射形白熱電球
「アイランプ」を開発し、そ
の後も世界最高レベルの品質
を誇る高輝度放電ランプ(日
IDランプ)や超小型白熱電
球、高演色コンパクトHID
ランプ等、開発してきた光源
の数は約5千5百種類にも及
ぶ。昨年度、創立70周年を迎
え、全国各地で高い信頼と安
全性を備えた製品を提供して
いる。

「当社では「新たな光で未来



岩崎電気(株) 所長
青森営業所 相原 覚 氏

を照らす」をコーポレートスロ
ガンとし、「環境への配慮」「明る
さの質」「演出」といったニーズに
応える新光源や照明器具・制御
装置の開発を進めています。光
源のポテンシャルを最大限に引
き出すため、配光技術、回路技術
を駆使して、道路・トンネル照
明、街路照明、スポーツ

ツ関連や屋外照明に力を入れ、
全国では2020年の東京オリ
ンピックをメインに、お客様に
照明を通じて感動を提供してい
きたいと考えています」と語っ
てくれた。

仙台東身の同氏に青森県の印
象を聞くと、「青森県は新青森
駅、七戸十和田

新たな取り組み等について尋
ねると、「昨年、プロ野球の屋外
ナイター照明では日本初となる、
横浜スタジアムのナイター照明
設備全面LED化を行いました。
総消費電力を56%削減し、高い
省エネ性と照明環境の向上を実
現できました。今後は、スポー

「夏はほぼゴルフに行ってい
ますが、以前は野球をやってい
ましたが、もう走れないです
ね。ゴルフは20年以上続けて
いるので、これからもスコア
が伸びるように頑張りたいで
す」と話す。

同氏の好きな言葉は「報恩
謝徳」。「東日本震災の時に
仙台で避難所生活を4ヶ月経
験しました。いろいろな人か
らご支援を頂き、受けた恩へ
感謝しながらもそれだけで終
わらせずに、なにかしら返し
ていかななくてはいけないと強
く思いました。この気持ちを
忘れずに日々頑張っていまし
ます」と力強い眼差しを見せた。
(47歳)

編集後記

一面でお伝えしましたが
組合員施設の新築・改築
が続いています。これに
より期せずして団地全体
のリニューアル化が進捗
することとなり誠に有難
いことです。▼今年度の重点事業
の流通機能向上支援策の報告書
が完成しました。その内容を今
号から連載します。▼転話題。木
下斉氏の「稼ぐまちが地方を変
える」誰も言わなかった十の鉄
則」の残り⑥⑦⑩をお知らせし
ます。▼鉄則⑥「利益率」にとこ
とんこだわれ」これは経費を削
減して利益を伸ばすことなので
すが、こだわるのが「まちとし
ての生産性を上げること」だそ
うです。▼鉄則⑦「稼ぎ」を流出
させるな」資金は地元で調達す
る。消費も同じ域内の利益にな
る。それが同じ域内の再投資
に向かえば、利益は域内で循
環し複利で膨らむことになりま
す。▼鉄則⑧「撤退ライン」を最
初に決めておけ」何かのプロジ
ェクトを行う場合、ダラダラ続
けることは最悪。事業は3ヶ月
ごとに点検し、何らかの結論を
出すべきだそうです。▼鉄則⑨

「最初から専従者を雇うな」ほ
とんどの仕事は「兼業スタッフ」
で回せるそうです。初期段階で
は役員全員が主体的な意識を持
って立ち上げることが大事だそ
うです。▼鉄則⑩「お金のルー
ルは厳格に」立上げ当初は、参
加者全員が投資すべきで「不特
定多数」からの資金調達に極力
避けるべきだそうです。自己資
金だからこそ事業に真剣に取り
組めるわけです(藤本)

新たな光で未来を照らす。



岩崎電気株式会社
代表取締役社長 渡邊文矢

本社 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビルディング
TEL 03(5847)8611 (代) FAX 03(5847)8645
青森営業所 〒030-0113 青森市第二問屋町3-3-21
TEL 017(739)3431 FAX 017(739)3476



夢をえがく、はぐむ、かなえる!
子どもたちの未来を応援します



丸文さとう株式会社

〒030-0131 青森市問屋町一丁目9-22
TEL: 017-738-4721 FAX: 017-738-4725